

東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス



木原和徳病院長が一日消防署長を委嘱されました

病 院 長 か ら ご 挨拶

木原和徳

「現場力」の醸成に
力を注ぎました

院長になって1年、職員ひとりひとりが、病院をより良くしようという気持ち（現場力）の醸成に力を注いでまいりました。現場力があってこそ、より良い医療を提供し続けられるものと思います。一方、患者さんの増加に病院のシステムが追いつかず、寄せられる苦情にお応えする力と費用が足りず、無念でした。この度、「梅・いち輪募金（1口1000円）」を設けて、患者さんと職員の篤志を患者さんに生かす試みを始めました。梅は医科歯科のシンボル。「梅一輪一輪ほどの暖かさ」…来年度は、職員と患者さんとで心暖かい先端病院を。

INDEX

病院長からご挨拶

当院の災害訓練と減災活動について

肝胆膵外科・田邊稔教授インタビュー

薬剤部～子どもの誤飲防止

皮膚科～アトピー性皮膚炎・乾癬治療/
看護部長より

胃外科～肥満症に対する外科手術/
腫瘍センターより

臨床栄養部に料理の鉄人が訪問

作家・医師の鎌田實先生が来院

院内感染予防のポスター掲示



火災発生時の院内訓練

看護部のミーティング



新ヘリポートでの大型ヘリからの搬出訓練



当院正面には季節の花々が咲いています

備えあって憂いなし! いざというときの「力」は、 日頃の訓練で

～当院の災害訓練と減災活動について～

当院では、毎年さまざまな災害訓練を行っています。そのようすをご紹介します。



無事に新ヘリポートでの訓練を終了

新ヘリポートで大型ヘリによる 訓練を実施



当院では、1995年から5トン未満のヘリコプターによる患者さんの受け入れを行い、救急医療に貢献してまいりました。そして東京消防庁が11トンの大型ヘリの運用を開始したことをうけて、昨年3月から大型ヘリポートへの改修工事を開始。今年1月に完成しました。そして2月4日には東京消防庁の大型ヘリから患者さんを受け入れる訓練が実施されました。当日は晴天に恵まれ、完成したばかりの大型ヘリポートには、ERセンターの医師・看護師に加え、研修医など関係者が多数集まり、東京消防庁や本郷消防署の方々の協力のもと、無事訓練を終了。そして当院でも大型ヘリの受け入れが開始となりました。



11トンの大型ヘリの離着陸が可能になった新ヘリポートでの訓練のようす



一日消防署長の委嘱状授与式



はしご車で被災者を救出する訓練



上層階の人命救出には欠かせないはしご車



火災発生時の 消防訓練

3月4日には、東京消防庁本郷消防署とともに、火災発生時の消防訓練が行われました。この日は、木原和徳病院長が、「一日消防署長」に委嘱され、消防士姿で委嘱状を受け取りました。その後、火災が発生したという想定で、ハシゴ車による上層階の患者さんの救出や、負傷者の運搬、ポンプ車による放水などが行われました。



◀火災発生時の院内での負傷者の運搬手順を確認



ポンプ車による放水



火災発生時事の救命救助の訓練



◀災害対策本部設置の訓練

災害発生時の 実践的な訓練

災害が発生した場合に、実際にどのように病院全体の安全体制を整えていくかについて、2月13日にはロールモデルを使った訓練を実施しました。災害対策本部の設置、各責任者の任命、人的・物的被害情報の収集、被害レベルの判断、災害対策に関する方針の決定、病院全体への周知というステップを確認し、実践的に訓練を行いました。





肝胆膵外科 田邊 稔教授インタビュー

肝胆膵外科の医療安全や患者さんとのコミュニケーション、海外の患者さんの受け入れなどの取り組みについてお話していただきました。

Q 高難度の手術が多い肝胆膵外科として、どのような努力をされていますか？

A 間口は広く、初診患者さんを毎日受け入れています

まず、数少ない難易度の高い手術を行う施設として、いつでもお困りの患者さんを受け入れられるように、間口を広く持つことが責任と考え、毎日外来診療日（月水金）は全て初診患者さんの診察を受け付けています（緊急症例はいつでも可）。そして手術を受ける患者さんは必ず1度は教授、つまり診療科の責任者である私自身が診察します。当科で行われるすべての手術や治療に対して責任がありますので、患者さんと直接お会いしておくことが重要だと考えています。

Q 手術の安全性を高める取り組みについて教えてください

A 高難度手術は術前シミュレーションで確認しています

高難度の手術に関しては、術前に撮影した患者さんのCT検査の画像を解析して、手術のシミュレーションを鮮明な画像で確認できるソフトウェアを活用しています。解析に時間がかかる決して楽ではない作業ですが、医局スタッフが、術前にシミュレーション画像を確認し、切除する患部の範囲や切除の際の注意すべきポイントなどについて指摘し合うことで、より高い緊張感と安全性をもって手術に臨むことができます。

Q 症例報告はどのように行っていますか？

A 放射線診断科スタッフとともにじっくり時間をかけています

毎週1回、夜遅くまで、じっくり時間をかけて、放射線診断科のスタッフと一緒に症例報告会を開いています。入院中の患者さんだけでなく、外来の患者さんの症例についても、スタッフ全員で情報を共有し、治療や検査の経過を報告します。医局スタッフの仕事の内容をしっかりと確認し、互いに刺激を受けながら技術力を向上させ、安全性を高めるためにとても大切な時間です。

Q 患者さんへの手術・治療方針の説明はどのように行っていますか？

A 治療法の選択肢やリスクもきちんと説明し患者さん自身が決められるように説明

インフォームド・コンセントは、当科のように高難度の手術を行う場合には、特に時間をかけてじっくりと患者さんに説明しています。治療法の選択肢は、考えられるものはすべて説明し、それぞれのリスクについても数字を出して説明します。良いことばかりではなく、治療に伴うリスクに対しても、きちんと理解していただいた上で、患者さんご自身で最終的な判断をしていただけるように、できるだけいねいに、わかりやすく説明しています。患者さん自身が、自分が受ける治療法をきちんと理解し、「良くなるう、がんばろう」という気持ちと覚悟を持って治療に臨むことが、治療を良い方向に導くための大切な基盤となるのです。

Q 海外の患者さんの受け入れもスムーズに行えたそうですね？

A この経験を参考に心温まる医療で海外の患者さんの受け入れを

まだ1例ですが、外国人の患者さんを受け入れて検査を行い、とても良い経験になりました。ただし、言語の問題、経済的な問題、時間的な制約など、体制を整えなければならないポイントがたくさん浮かび上がってきました。たくさん診察科や管理部門のスタッフの理解と努力が必要となることもわかりました。当院でメディカルツーリズムを推進していくための、ケーススタディとして今回の例を参考にいただき、海外でお困りの患者さんにも、温かい医療サービスが提供できるように取り組んで行こうと思います。



薬剤部 子どもの誤飲防止



子どもによる医薬品の誤飲事故に注意！

薬剤部長 高橋 弘充

平成26年12月19日に消費者安全調査委員会により、「子どもによる医薬品誤飲事故」の報告書が作成されました。5歳以下の子どもの医薬品等の誤飲事故情報の件数は、平成18年以降増加傾向にあり、一般用医薬品等に比べて、医療用医薬品の誤飲が増加する傾向があります。特に大人用に処方された医薬品の誤飲が多く、リスクの高い医薬品（向精神薬、気管支拡張剤、血圧降下剤、血糖降下剤）は、誤飲すると重い中毒症状を呈するリスクが高いと考えられ、とくに注意が必要です。

子どもの誤飲事故の傾向



おおむね6か月～1歳3か月未満

口に入れることを想定していない塗り薬による誤飲事故が多い



おおむね1歳3か月から2歳未満

塗り薬の誤飲が減り、錠剤の誤飲件数の方が多い。
また、錠剤の誤飲のピークは1歳であり、2歳まで多発していた。



おおむね2歳

甘いシロップ剤を開封するといった水薬の事故が多くなる。

(平成26年12月19日発出 消費者安全調査委員会報告資料より)



奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部 連携総務掛
TEL：03-5803-4012 FAX：03-5803-0179



東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために次のような「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

●国際交流事業

留学生の支援・学生の海外派遣の推進・海外拠点の支援・外国の大学などとの教育・研究協力・交流の支援

●学生育成奨学事業

優秀な学生への奨学金の充実・勉学環境の充実

●その他の事業

産学連携・社会貢献活動の支援

問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL：03-5803-5009 FAX：03-5803-0273



アトピー性皮膚炎の教育入院を4月よりスタート

アトピー性皮膚炎に対する教育入院を4月より開始します。これはただ漫然と薬剤を処方するのみならず、患者さんに対して病気の認識を深めてもらうことによって医者・患者関係を良好にすること、それを基盤としてよりよい加療を行っていくことを目的としています。ご関心がある方は皮膚科にお問い合わせください。



アトピー性皮膚炎に対する新規治療法(核酸医薬)の開発について

アトピー性皮膚炎の症例においては、血中のIgE抗体の上昇がみられるような、いわゆるTh2型とよばれる免疫反応が異常に亢進していることを考えさせられる例が多くみられます。我々はこの点に着目して、現在使われている治療薬(抗炎症作用を主眼においたもの)とは全く異なるメカニズムをもってアトピー性皮膚炎の治療を可能にする方法について検討を行ってきました。簡単に言うと、亢進しているTh2型免疫反応をうまく抑制してあげればどうだろう、ということなのです。

Th2型免疫反応における中心的な役割を担っている分子の一つにSTAT6というものがあります。我々は、このSTAT6をターゲットとして、その機能を抑制することによって、アトピー性皮膚炎を治療することを考えております。STAT6の機能を抑制する方法としては核酸医薬を利用することを考えております。

これまでにすでにマウスにおける

研究や、実際のアトピー性皮膚炎の患者さんを対象にしたOpen-label studyを行っておりそれぞれで治療効果を認めております。このたび、その開発について、研究費をいただけることとなりましたので、実際に治験がスタートするのは1～2年先となる予定ですが、精力的に開発を推し進めてまいります。

乾癬に対する新しい治療法(生物学的製剤)について

アトピー性皮膚炎とともに、皮膚科では多くの患者さんが悩んでおられる乾癬という疾患を対象にして、近年、急速な勢いで生物学的製剤が開発されており、日本においてもTNF α 阻害剤、IL-12を対象にしたものなどが、次々と承認されております。今春も新しい生物学的製剤(IL-17を対象にしたもの)が承認、発売されました。当科においても、これら新しい治療薬を積極的に使用し、疾患で悩んでおられる患者さんのためになるよう考えておりますので、ご関心のある方は、ご相談ください。

Voice

川崎つま子 看護部長
Tsumako Kawasaki



看護部長より

チーム医療に積極的に貢献していきたいです

私は昨年4月より当院で勤務させて頂いておりますが、教育・研究そして診療にとっても熱心な医師をはじめとする病院職員に出会い、充実した時間を過ごしております。私の所属する看護部門も、当院を利用して下さる患者さんの支えになるように、そして、積極的にチーム医療に貢献できるように、これからも一生懸命取り組んで参ります。





肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術について

日本でも肥満は増加傾向にあり、一般的な基準とされるBMI 25 kg/m²以上の方は約30%を占めるまでになり、高度肥満のBMI 35 kg/m²以上の人も0.5%の60万人はいるとされています。肥満の人は健康的にもさまざまな合併疾患をかかえることが多くなっています。(BMIの正常は18.5～25とされています(単位kg/m²。))

近年、高度肥満に対して手術が長期的な減量効果をもたらすことが示され、2000年頃より日本でもさまざまな方法の腹腔鏡下手術が行われるようになってきました。昨年4月から腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が保険診療になったことから、当院でも昨年12月から腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を開始しました。

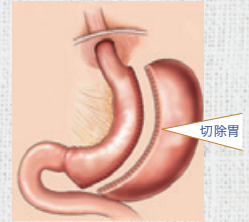
肥満は原発性肥満(一次性肥満)と、二次性肥満に分けられますが、薬物や内分泌疾患が原因である二次性肥満の場合にはその原因の治療が優先されます。重度の精神的疾患やアルコール依存が関与している場合にも適応については慎重に検討します。

手術適応

内科的な治療をおこなっても減量効果が十分に得られない方に対して、肥満に伴うさまざまな合併症を改善させる目的で手術をおこないます。
[適応基準] 年齢が18歳から65歳までの原発性肥満(一次性肥満)の方で、内科的な治療を6ヶ月以上受けても十分な効果が得られない方で、次の条件を満たす場合となります。
BMI 35kg/m²以上であり、糖尿病、高血圧、脂質異常症のいずれか1疾患以上を有する人。

手術の方法

腹腔鏡下スリーブ状胃切除
胃の外側(大彎側)を切除して、胃を縦型に袖状形成(スリーブ)します。胃の容量は約1/10に減少します。胃の切除は、自動縫合器を用いて行います。腹腔鏡、胃の切離や周囲の剥離操作を行うための器具の挿入は、腹部の5～6箇所直径5～15mmのポートを通しておこないます。ポートの傷は、開腹手術よりもとても小さいので、整容面や術後の回復の早さなどにおいてメリットがあります。



腹腔鏡下スリーブ状胃切除術

手術治療により得られる効果

手術後半年から1年の間に、50～70%の超過体重減少率(%EWL)が得られると見込まれます。
*%EWL(超過体重減少率 excess weight loss)=体重減少量÷超過分の体重(現体重-理想体重)×100
(理想体重は、BMIが22となる体重で計算しています。)
例) 身長165cm、体重110kgの方が80kgに減量した場合、%EWL=60%となります。
また、減量効果により糖尿病、高血圧、脂質代謝異常などの肥満に関連した健康障害が改善することが期待されます。肥満が関係する2型糖尿病に関しては、80%以上の改善率との報告があります。

手術後の経過

術後翌日には飲水の開始、2日目より流動食からの開始となります。合併症がなく経過した場合は術後1週間の退院を見込んでいます。

術後の食生活について

手術後の食事は手術前と比べて大きく変化します。適切な食生活をするために、栄養士による綿密な指導を行います。不適切な食事のしかただと、嘔吐や嘔気が続いたり、リバウンドが起こったりします。
高蛋白低エネルギーとした調整食(フォーミュラ食)を用いて、手術前から食事量の管理を行います。

*詳細は胃外科または内分泌内科外来にお問い合わせください。

Voice

三宅 智 腫瘍センター長
Satoshi Miyake

腫瘍センターより

地域がん診療連携拠点病院になりました

当院は、平成26年8月6日に「地域がん診療連携拠点病院」として認定されました。平成26年度よりがん診療連携拠点病院の要件が、さらに強化され、より厳しい条件をクリアした拠点病院の第1号としての認定となりました。当院の特徴としては、食道がん、腎・膀胱・前立腺がんなどに内視鏡や腹腔鏡を用いた負担の少ない治療を行うほか、歯学部附属病院と口腔がん領域での連携を行っており、その患者数は全国随一です。JR御茶ノ水駅および地下鉄2駅に近接し、大規模な駐車場を有するため、来院にご負担のない病院でもあります。特定のがんに高い診療実績を持ち、拠点的役割を果たす病院としてさらにがん診療に尽力してまいります。





料理の鉄人・野永喜三夫さんが臨床栄養部を訪問

2月17日には、TV番組『料理の鉄人』でアイアンシェフに輝いた『日本橋ゆかり』の野永喜三夫シェフが、臨床栄養部を来訪し、厨房見学や病院食の試食をしました。プロの料理人としての視点で、病院の厨房、病院食の味について、さまざまなアドバイスをしたほか、玄米食に取り組んではどうかという提案もいただきました。野永シェフは「患者さんの状態に合わせて、一品ずついいいに味付けや盛り付けをしていることに感動しました」と感想を述べました。写真は3月24日お昼の入院患者さん用の食事。彩りも豊かな野菜たっぷりの中華丼、ニラスープ、なす利休煮、デザートは牛乳寒。臨床栄養部では、患者さんに喜ばれる食事の提供を心がけ精進しております。



アイアンシェフが厨房システムを興味深く視察



野菜たっぷりの中華丼、おいしそう!

本学卒業生で作家・医師の鎌田實先生が来院



高気圧治療部、スポーツ医学センターなどを見学する鎌田實先生

2月24日には、作家・医師で本学卒業生の鎌田實先生が、当院の取材で来訪されました。「懐かしいな～」を連発しながら、スポーツ医学診療センター、高気圧治療部などを見学・体験しました。今後も立派に成長した母校を訪問し、最先端の医療に触れて刺激を受けたいそうです。



セカンドオピニオン外来とは



セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかられている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。

問い合わせ先

医療支援課セカンドオピニオン外来受付担当
TEL: 03-5803-4568 FAX: 03-5803-0119

献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL: 03-5803-5147

院内感染予防のポスター掲示

当院内のあちこちに、設置中のアルコール消毒スプレーと一緒に掲示しているポスターをご存知ですか？こちらは総合受付にある東京医科歯科大学吉澤靖之学長バージョン。吉澤学長は呼吸器内科ドクターですので、院内感染の予防にも熱心で、自ら率先して感染対策のPRに参加していただきました。ほかにも木原和徳病院長をはじめ、当院の先生方やスタッフが多数登場しておりますので、見つけたらニコリ笑顔で手指の消毒をお願いします。



海外からの患者さんも快適に ～メディカルツーリズム～

2月23日、24日は、当院眼科を海外に紹介するビデオの撮影を行いました。海外からの患者さんにも快適に当院をご利用いただくための紹介ビデオは、英語、中国語、ロシア語版を制作予定。外国人の患者さんにも利用しやすい病院を目指します。



病院入口の花壇のお花が 咲いています!

御茶ノ水駅から当院入口までを飾る花壇の花々が、色とりどりに咲き始めました。近くにベンチなどもありますので、かわいい花を見ながらひと休みしてください。



東京医科歯科大学医学部附属病院 広報誌「オアシス」7号
発行 東京医科歯科大学医学部附属病院
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学医学部附属病院総務課
デザイン・SOYA
編集・宇山恵子
撮影・田山達之

オアシスについてのご意見・ご感想は
syomu2.adm@tmd.ac.jp までご連絡ください。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上の例外を除き、
禁じられています。